

## 教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所属・職・氏名	神戸市立垂水中学校	研究チーム名
	職・氏名 教諭 岩本 知之	( 不登校対策「学校がスキッ」 )

研究テーマ分類番号 ( 20 )

(1)研究テーマ	不登校生に対する「真の生徒理解」と組織的な対応のあり方について
(2)研究経過及び具体的な取組	<p>7月29日 過去の不登校生徒の欠席数の推移についての分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析方法：過去の卒業生の長期欠席の月別の欠席日数の増減や長期欠席の状態になるまでの欠席数が急激に増加した契機を、学校の行事と照らし合わせ、学校生活の中で欠席が増加しやすい時期等についての傾向を把握することを考えた。</li> <li>・分析結果：年度当初に行われる宿泊行事などは参加率が高いが、それを終えた段階で小学校から欠席がちだった生徒は、欠席が増加する傾向にある。また、長期休業明け、特に夏休み明け9月に欠席が増加し、それが長期化することが多い。夏休みから生活リズムが崩れ、それを立て直せない状況が見られ、長期休業中の本人・家庭への働きかけの重要性が見えてきた。</li> </ul> <p>8月23日 夏季職員研修会（講演）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演題・講師：『～不登校生が輝く～』 日生学園第三高等学校 校長先生</li> <li>・実施場所及び人数：垂水中学校会議室 全職員参加</li> <li>・成果と課題：中学校時不登校を経験した生徒たちが、高校進学という環境の変化を契機に、学問・芸術などのさまざまな分野で才能を開花させていく過程を知ることができた。 不登校を経験する生徒の多くは、学校での学力不振という課題を抱えており、基礎学力の充実のためにさまざまな手立てを組んでいくことの大切さを知ることができた。 本校においても、現在の早朝学習や補充学習教室等の取り組みも含め、さらに個々の理解度に応じた学習支援の方法に工夫が必要であると感じた。</li> </ul> <p>11月30日 不登校生についての情報交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所及び人数：垂水中学校会議室、全職員参加</li> <li>・実施内容：不登校の生徒について、学年内での情報交換の機会が多い。しかし、他学年の生徒については、刻々と変化する状況の中で、つぶさに知ることが困難な状況も発生する。 そこで全職員が、個々の生徒について現段階でどのような課題を抱えており、学校の取り組みの状況について情報を共有することで、別室登校生や休日や夜間に頑張っている生徒に対して、組織的に支援態勢がとれるよう再確認した。</li> </ul>